

論題	横浜正金銀行員の肖像写真—川島忠之助資料から—
著者	寺寄弘康
掲載誌	神奈川県立博物館研究報告—人文科学— 第40号
ISSN	0910-9730
刊行年月	2013年（平成25年）10月
判型	A4（210mm × 297mm）

【資料紹介】

横浜正金銀行員の肖像写真

— 川島忠之助資料から —

寺 寄 弘 康

【キーワード】

横浜正金銀行 行員 肖像写真 川島忠之助

【要旨】

横浜正金銀行で明治十五（一八八二）年から大正七（一九一八）年まで行員や取締役を務めた川島忠之助の手許に残された写真の中から、横浜正金銀行員の肖像を抽出し、写真の裏書きなどの情報をもとに撮影年代や、川島に写真が贈呈された事情を明らかにするとともに、行員の略歴も付記した。

このような肖像写真の贈呈や交換という行為は、当時、正金銀行だけでなく政官財界などで普通におこなわれていたようである。正金銀行の場合には、国内店舗と海外店舗の行員が直接顔を合わせる機会が限られることから、肖像写真を交換することにより、互いの現況を確認しあうことを目的としていたと考えられる。

はじめに

本誌三十七号掲載の拙稿「横浜正金銀行創設当初の職制と行員」⁽¹⁾では、横浜正金銀行が開業した明治十三年の年末までに入行した行員四十一名について、その人物の略歴や人脈の特徴などについて明らかにすることができた。その一方で、人物名と略歴は判明しても、どのような姿や風貌であるのか、具体のイメージがないことに多少の戸惑いも生まれた。歴代頭取の肖像を除くと、横浜正金銀行員の肖像写真として知られているのは『原六郎翁伝』⁽²⁾に掲載されている明治二十年頃に撮影された集合写真が唯一といえよう。

ところが、リヨン出張所の初代主任で、後に取締役を務めた川島忠之助の手許に残された多数の写真を入手することができた。平成十六年に神奈川県立歴史博物館で開催した「横浜正金銀行展」に際して、川島忠之助の遺孫から提供を受けたものである。本稿では川島忠之助資料の写真の中から横浜正金銀行員と判明できる人物の肖像と略歴を紹介することにしたい。

一 川島忠之助の略歴⁽³⁾

ア 正金銀行入行前

嘉永六年五月三日 飛騨代官手代川島奥六の次男として江戸にて誕生

慶応三年 従兄弟中島才吉の紹介により横須賀製鉄所製図工見習いとなる。当時「中島忠之助」と称していた

明治三年 横須賀製鉄所覺舎に入学

明治五年十月十九日 海軍省主船寮十五等出仕

明治六年四月 大蔵省に出向し富岡製糸場ブリューナの通訳を務める
明治六年 富岡製糸場と海軍を辞す

明治七年 横浜のヘクト・リリアンタール社に番頭格で入社

明治九年十一月二十六日 渋沢栄一の依頼により、蚕卵紙売込団の通訳として同行し横浜出港

明治十年六月十八日 帰国

明治十一年六月 『八十日間世界一周』前編を慶應義塾出版局より出版。

明治十三年六月には後編を出版

イ 正金銀行在職中

明治十五年四月十七日 正金銀行入行、リヨン出張員を命じられる

明治十五年五月七日 タイナス号にて横浜出航

明治二十一年六月～十一月 一時帰国

明治二十八年六月 帰国、本店副支配人

明治三十年十二月十三日 孟買出張所主任

明治三十一年十二月二十六日 帰朝命令

明治三十二年四月十七日 東京出張所主任

明治三十三年七月 東京出張所の支店昇格により東京支店初代支配人

明治三十八年八月十四日 行員の手代制廃止にともない書記となる

明治三十九年六月十九日 本店副支配人

明治四十年九月 取締役就任

明治四十一年三月 取締役兼本店支配人

明治四十五年三月 本店支配人兼務を解任

大正七年三月 取締役辞任

ウ 正金銀行退行後

大正十一年七月 小栗上野介とヴェルニー記念建像の発起人に名を連ね、九月二十九日横須賀市諏訪公園での記念式に参列

昭和四年五月 喜寿祝賀会

昭和十三年七月十三日 歿

右のように川島は明治十五年から大正七年まで三十九年間にわたり横浜正金銀行に勤務し、そのうちリヨンとボンベイでの海外勤務は通算で十四年にも及び、また取締役を十一年余務めた。その間に多くの横浜正金銀行員をはじめ国内外の人物と交流したことで、彼の手許に多くの写真が残されたのである。

二 横浜正金銀行員の肖像写真

川島忠之助資料の写真点数は三三〇点を数え、そのうち現在までに横浜正金銀行員と判断できる個人写真は、川島の写真を含めると次表のとおりである。

行員を五十音順に並べ、最初は整理番号で、次に写真番号、氏名、撮影年代、写真館とその住所、写真の裏書き、寸法を記載してある。以下では整理番号順に、行員の入退行、略歴を記載することにしているが、典拠資料は、横浜正金銀行の経営資料である『横浜正金銀行資料』（東京大学経済学部資料室所蔵）の中から「取締役会決議録・重要事項報告録抜粋」「諸願書届書留」「行報」「岸資料」「実際考課状」（いずれもマイクロフィルム版）、正友会所蔵資料、原六郎、園田孝吉、相馬永胤ら頭取の伝記、新聞記事などを用いた。

表 川島忠之助資料の横浜正金銀行員写真

No.	資料番号	被写体氏名	年代		写真師	住所	裏書	寸法 mm (縦×横)
1	2-036	芦谷 十一郎	未詳				呈川島御老台御許 布哇芦谷十一郎	262×158
2	3-176	伊沢 信三郎	1885年	明治18	Alexandre Sage	Lyon	明治十八年六月 謹呈川島忠之助殿 於仏国里昂府 伊沢信三郎	104×61
3	3-016	市川 亮功	1898年	明治31	E. Desvignes	13 Gde Cote, 13, Lyon	明治三十一年七月二十四日撮影 拝呈 川島老兄 里昂市川亮功	164×107
4	3-010	一宮 鈴太郎	1898年	明治31	Arthur Weston	52&53 Newgate St. London. E.C.	呈 川島先生 明治三十一年六月十日 竜動ニテ 一宮鈴太郎 Bombay	166×107
5	3-207	伊藤 詮一郎	1882年	明治15	鈴木真一	横浜本町通・ 東京九段坂	奉呈 川島忠之助仁兄大人 明治十五 年五月於横浜 辱交伊藤詮一郎拜	106×64
6	3-009	大坪 文次郎	1891年	明治24	Byrne & Co.	Richmond	川島老兄ニ呈ス 明治二十四年十月 大坪文次郎	166×187
7	3-150	小野 政吉	1889年	明治22	江崎礼二	東京浅草公園 地	a Monsieur T. Kawashima M. Ono 24 Avril 1889 小野様	103×64
8	3-015	川上 直之助	1893年	明治26	C. M. Gilbert	926 Chestnut St. Phila.	贈呈 川島老台 川上直之助 明治 二十六年十月	166×110
9	3-254	川島 忠之助	(1877年)	明治10	Giulio Rossi	Milano Genova	川島 ミラノにて	104×63
10	3-250	川島 忠之助	1882年	明治15	Cognet	28, Faubourg St. Honore Paris	明治十五年八月二十四日於仏京巴黎所 □撮影者也 在里昂川島忠之助	164×109
11	2-030	川島 忠之助	(1898年)	明治31	Bourne & Thepherd	Bombay		163×108
12	3-046	木村 利右衛門	未詳		鈴木真一	横浜真砂町・ 東京九段坂		164×109
13	3-257	児玉 謙次	1898年	明治31	Raja Deen Dayal & Sons	Bombay	呈川島老台生令 孟買明治三十一年 十一月 児玉謙次	164×106
14	3-085	相馬 永胤	(1894年)	明治17	Victoire	Lyon		104×62
15	3-020	園田 孝吉	未詳		丸木利陽	東京芝新シ橋 角	呈川島君	165×107
16	3-181	高木 貞作	1882年	明治15	鈴木真一	横浜本町通・ 東京九段坂	拝呈 川島忠之助君 高木貞作 明治 十五年五月中旬	106×64
17	2-021	高橋 是清	1898年	明治31	D. Satow	Shanghai	謹呈 川島忠之助君 高橋是清 明治 三十一年四月	182×129
18	3-162	武澤 熈載	1885年	明治18	Victoire	Lyon	贈川島久和君 明治十八年六月 武澤 熈載	104×64
19	2-014	露木 初太郎	1897年	明治30	Bellingard	Lyon	明治三十年十一月六日 露木初太郎 呈 川島忠之助様	105×64
20	3-270	時枝 誠之	1906年	明治39	鴨下		謹呈川島大人座右 明治三十九年二月 二十七日 時枝誠之拜	194×139
21	3-241	中村 錠太郎	未詳		二見朝隈	東京銀座二丁 目	呈川島御叔父様 中村錠太郎	103×64
22	3-031	中村 道太	(1882年頃)	明治15	鈴木東谷	横浜旭通		105×64
23	3-007	鍋倉 直	1885年	明治18	Pach Bro's	841 B'way N.Y.	明治十八年三月在紐育 鍋倉直 呈川 島忠之助君 机下	166×109
24	3-056	西巻 豊佐久	1892年	明治25	C. A. Gandy	47. Old Broad Street London	Lyon 14th Oct. 1892 Yours treely T.S. Nishimaki	164×107
25	3-114	根岸 政常	1881年	明治15	鈴木真一	横浜真砂町・ 東京九段坂	明治十五年五月七日 根岸政常 呈川 島姉君	106×63
26	3-143	羽倉 信太郎	1901年	明治34	Desvignes	Lyon	明治三十四年七月二十五日里昂出張所 羽倉信太郎	105×63
27	3-044	原 誼太郎	1894年	明治27	J. Weston & Son	27. Sloonest S. W.	明治二十七年九月二日孟買支店赴任ノ 為メ倫敦出発ニ際シ撮影 原誼太郎	253×190
28	3-219	原 六郎	(1886年頃)	明治19	鈴木真一	横浜真砂町・ 東京九段坂		105×64
29	3-266	原 友己	1905年	明治38			明治三十八年二月二十一日 謹呈 川 島尊台 原友己 再拜	167×108
30	3-116	福沢 英之助	(1882年頃)	明治15	A. Schleesselmann	Yokohama Japan	福沢英之助	104×63
31	3-050	戸次 兵吉	1888年	明治21	London Stereoscopic Company	54, Cheapside, E. C.	呈川島君 明治二十一年九月四日 於 横浜客舎 戸次兵吉拜	164×107
32	3-265	松村 一造	1899年	明治32	K. Fukuda	NOGEMACHI, YOKOHAMA JAPAN	呈川島叔父 陸軍歩兵少尉正八位松村 一造 参十二年五月	138×92
33	3-248	宮川 恭太郎	1900年	明治33			呈川島老台 座右辱知宮川恭太郎 明 治三十三年一月二日於孟買写之	253×200
34	3-227	村田 一郎	1884年	明治17	Pach Bro's	New York	To Mr. C. Kawashima "Forget me not "your friend I. Murata 4/11/84	104×64
35	3-255	山川 勇木	1896年	明治29	K. Tamamura	Yokohama Japan	Yokohama 15th May 1896 To T. Kawashima esq. from Yuki Yamakawa	163×108

1 芦谷 十一郎 明治二十九年七月四日入行、昭和八年六月六日停年退職。

2 伊沢 信三郎 明治十七年二月十七日入行、リヨン出張所詰、同年三月二十九日にリヨンに着任、明治二十年五月解雇。伊沢修二・多喜男の兄弟。

3 市川 亮功 明治二十年七月十一日入行、リヨン出張所に赴任、明治二十八年六月二十四日リヨン出張所主任心得、明治三十年十月二十五日リヨン出張所主任、明治三十一年十一月二十八日帰朝申付、明治三十三年十二月三十日日本店内国課長、明治三十八年五月一日奉天出張所主任、明治三十八年九月九日休暇帰朝申付、明治三十八年十二月十七日死亡退職。

4 一宮 鈴太郎 明治三十年七月三日入行、明治四十二年十二月十六日ニューヨーク出張所主任、大正八年五月十日取締役当選、大正十一年三月十一日副頭取就任、昭和二年七月二十一日副頭取辞任、昭和十三年三月十日取締役辞任。

5 伊藤 詮一郎 明治十二年十二月二十五日入行、明治十四年六月上海出張、明治二十四年三月三十日依願退職。

6 大坪 文次郎 明治十三年二月二十四日入行、明治二十四年五月二十五日ニューヨーク出張所臨時主任（九月十四日）、明治二十四年七月原六郎取締役とともに英仏の支店検査のため出張、明治二十五年五月十五日死去退職。

7 小野 政吉 明治二十年十月十四日入行、明治二十八年五月リヨン出張所付け在勤、明治三十一年十一月リヨン出張所主任、大正十年帰国、大正十一年六月三十日退職。

8 川上 直之助 明治二十六年九月十八日入行、明治三十年六月二十三日退職。

12 木村 利右衛門 明治十二年十二月二十一日取締役当選、明治十六年三月支配人兼務、明治二十四年六月支配人退任、大正八年四月十九日取締役辞任。

13 児玉 謙次 明治二十六年八月七日入行、明治二十七年七月ボンベ出張所詰、明治三十八年六月ボンベ支店支配人、明治四十四年三月二十五日日本本店詰、同年九月四日上海支店支配人、大正八年五月取締役、大正十一年三月頭取、昭和十一年九月頭取辞任、昭和十九年三月取締役辞任。

14 相馬 永胤 明治十五年十月官選取締役、明治十七年九月ロンドン支店開設準備のため出張、明治二十年七月官選取締役廃止し、新たに取締役就任、明治二十一年三月取締役退任、同年四月法律相談役就任、明治二十三年三月取締役当選、同年五月行務調査員、明治二十七年三月海外支店検査などのため出張、明治三十年四月頭取就任、明治三十三年四月欧米支店視察のため出張、明治三十五年三月清国各店視察のため出張、明治三十九年三月頭取辞任、大正十三年一月死亡、取締役辞任。

15 園田 孝吉 明治二十三年三月十日取締役当選、頭取就任、明治三十年四月頭取辞任、大正八年四月取締役辞任。

16 高木 貞作 明治十五年四月十一日入行、明治十七年五月二十二日ニューヨーク出張所主任、明治二十五年七月ニューヨーク出張所主任、明治二十六年十二月十一日帰朝申付、明治二十七年四月九日神戸支店支配人心得、明治三十年九月二十七日神戸支店支配人、明治三十年十二月本店支配人心得、明治三十一年一月五日依願退職。

- 17 高橋 是清 明治二十八年八月本店支配人兼任、明治二十九年三月十日取締役兼支配人、明治三十年四月副頭取、明治三十一年二月欧米出張、明治三十二年三月副頭取取締役辞任、明治三十九年三月頭取兼任、明治四十年十月中国各店視察のため出張、明治四十四年六月頭取辞職。
- 18 武澤 颯載 明治十八年三月二十五日入行、リヨン出張所詰、明治二十七年一月八日ハワイ出張所主任、明治三十一年二月二十一日帰朝申付、明治三十四年一月二十八日退職。
- 19 露木 初太郎 明治二十八年七月一日入行、明治三十五年四月二十八日帰国、明治三十八年九月四日依願退職。
- 20 時枝 誠之 明治三十二年三月十七日入行、明治四十一年十月二十四日ハワイ支店支配人、明治四十三年四月十四日ニューヨーク出張所副主任、大正五年一月サンフランシスコ支店支配人、大正九年九月人事課長兼庶務課長、昭和五年三月三十一日退職。
- 21 中村 錠太郎 明治十七年五月十二日入行、明治二十六年九月ロンドン支店詰、明治三十二年十月牛莊出張所主任、明治四十四年九月四日大阪支店支配人、明治四十五年三月神戸支店支配人兼務、大正三年七月総務部助役、大正九年六月三十日退職、川島忠之助の従兄弟。
- 22 中村 道太 明治十二年十二月二十一日正金銀行取締役当選、明治十二年十二月二十六日頭取兼任、明治十五年七月十日頭取及び取締役引責辞任。
- 23 鍋倉 直 明治十七年五月十五日入行、明治二十年七月十五日日本店詰、明治二十四年三月三十日サンフランシスコ出張所主任、明治二十五年五月香港支店支配人、明治三十年十二月六日神戸支店支配人、明治三十二年三月十三日検査人、明治三十二年五月二十九日日本店副支配人心得
- 明治三十三年四月九日日本店副支配人、明治三十三年八月十四日日本店副支配人兼検査人、明治三十四年一月二十八日検査人、明治三十四年九月十六日北京支店支配人、明治三十七年九月五日検査人、明治三十八年十二月二十五日日本店副支配人兼書記課長、明治四十五年三月二十八日休職、大正二年九月二十九日退職。
- 24 西巻 豊佐久 明治十七年七月一日入行、ニューヨーク出張所詰、明治二十年四月十五日サンフランシスコ出張所主任鍋倉直の不在中、明治二十六年三月十五日上海出張所主任、明治三十九年八月十四日ロンドン支店支配人、明治四十一年十月十九日帰朝申付、明治四十二年三月二十二日総務部助役、明治四十二年十月二十一日外国課長、明治四十二年十月十六日日本店副支配人、明治四十三年八月二十六日死亡退職。
- 25 根岸 政常 明治二十九年十一月十二日入行、大正三年一月三十一日退職。
- 26 羽倉 信太郎 明治三十一年七月十二日入行、明治三十五年五月十六退職。明治三十三年頃にリヨン出張所詰。
- 27 原 誼太郎 明治三十二年七月二十日入行、明治四十一年十一月十二日上海支店副支配人、明治四十三年三月十五日長崎支店支配人、大正元年十二月十一日死亡退職。
- 28 原 六郎 明治十六年三月二十二日官選取締役、頭取兼任、明治十六年四月二十五日官選取締役辞任、株主総会選挙により取締役当選、明治二十三年三月十日頭取辞任、明治二十四年七月欧米出張、明治二十三年三月十日頭取辞任、明治二十五年二月二十五日欧米出張より帰国、大正八年四月取締役辞任。
- 29 原 友巳 明治三十二年五月一日入行、年不詳奉天支店副支配人、明

治四十一年十月六日帰朝、明治四十二年五月十八日退職。

30 福沢 英之助 明治十四年三月八日入行、明治十六年六月二十六日退職。

31 戸次 兵吉 明治十四年十二月二十七日入行、明治十五年ニューヨーク出張所主任、明治十八年帰国、明治十九年欧米銀行事務視察のため出張、その後ロンドン支店支配人、明治二十一年帰国、明治三十年本店支配人、明治四十五年一月九日死亡退職。

32 松村 一造 明治二十九年五月一日入行、昭和七年七月三十一日退職。

33 宮川 恭太郎 明治二十五年十月三十一日入行、大正十年十一月十日退職。

34 村田 一郎 明治十五年一月官選取締役、同年十月外国部支配人、明治十六年八月欧米出張所検査のため出張、明治十八年七月辞任。

35 山川 勇木 明治十三年七月十七日入行、明治十三年七月三十一日神戸支店詰、永治十六年二月神戸支店支配人心得（五月二十一日）、明治十七年一月二十九日神戸支店支配人心得、明治二十年四月五日ロンドン支店詰、明治二十年八月ロンドン支店支配人心得、明治二十四年三月三十日日本店副支配人、明治二十八年十二月二十三日外国課長兼務、明治三十二年二月十三日神戸支店支配人、明治三十六年九月十日取締役当選、明治三十六年九月十七日ロンドン支店支配人兼務、明治三十九年七月十六日日本店支配人兼務、明治四十年三月十六日総支配人兼務、大正二年九月十三日副頭取、大正七年三月十三日副頭取辞任、大正十五年三月十日取締役辞任。

三 写真の撮影年代など

1 芦谷十一郎の写真は、裏書きからハワイ支店に勤務していた際に撮影したものであるが、川島とはどのような接点があったのか、芦谷の勤務歴が不明なため判然としない。

2 伊沢信三郎の写真は、リヨンの写真館で撮影したもので、裏書きから明治十八年六月に伊澤から上司の川島に贈呈したことがわかる。

3 市川亮功の写真は、明治三十一年七月二十四日にリヨンの写真館で撮影し、当時ボンベイ出張所の川島に郵送したものである。それが到着した同年九月三日、川島は市川に返信を送り「今便ハ御近撮影ノ写影御恵投被下」と記し、謝意を伝えている。川島と市川はリヨン出張所で上司と部下の関係であるが、家族ぐるみの交際をしていた。川島がリヨンを離れてからも手紙のやりとりをおこなない、時には近影を送りあいながら、互いの近況を確認していたのである。なお、市川の写真は本写真以外にも二点含まれている。

4 一宮鈴太郎の写真は、明治三十一年六月十日にロンドンの写真店で撮影された。前年の七月に入行しロンドン支店に赴任した一宮が、ボンベイ出張所の川島に贈呈したものである。同年五月六日付で一宮に宛てた川島の書簡では「時下益御健勝英京へ御安着被遊奉欣賀候次二小弟モ幸ニ無異消光罷在候然ハ過般当地御滞在中御立替申置候諸費用」とあることから、一宮はボンベイ経由にてロンドンに赴任したことがわかる。なお、当時ロンドン支店には川島の従兄弟である中村錠太郎（写真21）が勤務していた。

5 伊藤詮一郎の肖像写真は、『原六郎翁伝』掲載の集合写真中に見いだすことができるが、集合写真のため小さく、シルクハットを被り顔の判

別が十分ではない。それに比べてこの写真は表情が明確になっている。明治十五年五月に横浜で川島に贈られたものであることが裏書きで判明する。この明治十五年五月は、川島が正金銀行に採用されリヨンに向け横浜港を出港した時期に当たり、おそらく正金銀行に入行した際に先輩行員である伊藤から贈られた名刺代わりの写真と見ることができよう。その後伊藤は明治二十四年の正金銀行改革により退職することになるが、在職中にリヨン出張所詰めの川島と武澤の所有する正金銀行株券の一部を無断で処分し、川島らが民事裁判に訴える騒ぎとなった。⁶⁾

6 大坪文次郎の写真は、その裏書きに明治二十四年十月に川島に贈呈した旨が記載されている。その前月の九月下旬には、原六郎取締役が大坪とともにリヨンを訪れ出張所の検査を実施しており、ロンドンへ戻った大坪がロンドンで撮影した肖像写真を川島に郵送したものと考えられる。

7 小野政吉の写真は、東京浅草の江崎礼二写真館で撮影された。裏書きによれば明治二十二年四月二十七日に川島に贈られたものである。小野は日本国内に、川島はリヨンにいたことから直接渡されたとは考えられないが、前年の明治二十一年の秋に川島は一時帰国しており、その際にフランス留学経験のある小野と顔を合わせて会話する機会があったのかもしれない。小野の弟信太郎も明治二十三年一月に正金銀行に入行している。

8 川上直之助の写真は、裏書きにより明治二十六年十月にアメリカ・フイラデルフィアの写真館で撮影されたことがわかる。川上の入行が同年九月であるので、川上は現地採用されたのか、入行以前に撮影した写真であるか判然としない。

9 から11は川島忠之助の肖像写真で、9は、川島が正金銀行入行前の明治九年から十年にかけて欧州を訪れたときに、イタリアのミラノのロッシ写真館で撮影したもので、二十三・四歳の時の写真。11はボンベイ出張所主任時代の明治三十一年の撮影と考えられるが、当時四十五歳である。両方を比較すると二十年余りの間に川島はすっかりと白髪白髭へと変貌していることがわかる。

12 木村利右衛門 横浜真砂町の鈴木真一写真館で撮影。木村は正金銀行創立時から取締役を務め、川島のリヨン出張所時代には本店支配人を兼務していたことから、川島とは通信連絡をとりあっていた。この写真には裏書きは見られないが、川島の入行時、すなわち明治十五年に川島に贈られたものではなからうか。前掲の『原六郎翁伝』掲載の写真と比べると、この写真の方が若いように思える。

13 児玉謙次 ボンベイの写真館で撮影されたもので、裏書きには明治三十一年十一月とあるので、川島がボンベイ出張所主任として赴任してきた際に児玉から贈呈されたものであろう。

14 相馬永胤 相馬が明治二十七年九月欧米各店の検査でリヨンを訪れた明治二十七年九月にリヨンの写真館で撮影された。裏書きはない。なお、川島の写真には、相馬を囲んでリヨン出張所の行員たちの集合写真も存在するので、相馬の風貌を比較してみても明治二十七年撮影と判断できる。

15 園田孝吉 東京芝の「新シ橋」^{あた}にあった丸木利陽写真館にて撮影された写真で、裏書きには「呈川島君」とだけ記載されている。園田は、明治十四年から二十二年までロンドン領事を務めており、その間川島がロンドンを訪れ園田と出会ったかもしれないが、園田が正金銀行取締役に

就任した明治二十三年三月以降は、川島がリヨンから帰国する明治二十八年まで直接顔を合わせる機会はなかった。裏書きが簡単な記載であることや、丸木利陽写真館の撮影であること、園田の風貌が若いときのものでないことなどから、頭取をやめる明治三十年までの写真であると考えられる。

16 高木貞作は正金銀行の入行前には商法講習所助教をへて明治十一年に第十五国立銀行に勤務していた。⁷⁾この写真の裏書きには明治十五年五月中旬に撮影した記載がある。高木は米国留学経験もあったことから、明治十五年に正金銀行がオーストラリアのメルボルンとシドニーに出張所開設を企画し、その出張員として明治十五年四月十一日に入行、同年五月に横浜から出港している。川島も同じく明治十五年に入行しており、両者は外国赴任を前にして写真を交換したものと考えられる。高木の肖像写真はもう一枚あり、明治十七年十一月八日にメルボルンの写真館で撮影し、リヨンの川島に贈ったもので、顎髭を蓄えたものである。高木の肖像は髭顔がほとんどであるので、このように髭のない姿は珍しい。

17 高橋是清は正金銀行の七代頭取である。高橋の肖像写真といえは晩年の白髭姿が有名であるが、本写真は明治三十一年の撮影で高橋四十四歳の時である。高橋は、同年四月に上海経由でボンベイ出張所を訪れ出張所の検査を実施した際に、上海で撮影したこの写真を川島に贈呈したのである。

18 武澤熙載と川島忠之助は正金銀行入行以前から交流があったことが、他の武澤写真から判明する。その裏書きには「恭呈 川島忠之助君 武澤熙載 明治十三年六月十三日」とあり、川島がまだ正金銀行に入行する前である。川島と武澤がどこで接点のあったのか不明であるが、武

澤は横浜のフランス語学校に在学していたこともあり、横浜の外国商館に勤務していた川島と顔を合わせるがあったのかもしれない。その後、リヨンに赴任した川島は武澤と書簡を往復させており、明治十八年に武澤が正金銀行に入行すると、リヨン出張所詰となったのも川島の推挙によるものかもしれない。この写真は、リヨンに赴任間もなく武澤がリヨンの写真館で撮影し、日本にいる川島の姉久和に贈呈したものである。川島忠之助資料の中には武澤と家族の写真が一四点ある。

19 露木初太郎は、明治二十八年七月一日に入行し、リヨン出張所詰となるが、川島とは出張所では同席していなかった。この写真は明治三十年にリヨンの写真館で撮影し、東京支店支配人を務めていた川島に贈られたものである。露木の遺族の元には、明治二十九年八月二十三日に撮影した手札写真が残されている。両者を比較してみると、明治三十年の写真の方が垢抜けたように思える。露木は病気のため明治三十五年四月二十八日に帰国し、明治三十八年九月四日依願退職をするが、その経緯については露木実「セピヤ色の追想」⁸⁾に詳しい。

20 時枝誠之の写真は、裏書きによれば明治三十九年二月二十七日に川島に贈呈したものである。当時川島は東京支店支配人であることから、時枝は同支店勤務であったのかもしれない。写真で見ると立派な髭を蓄えている。

21 中村錠太郎は川島の従兄弟にあたり、裏書きに「呈川島御叔父様 中村錠太郎」とある。東京銀座の二見朝隈写真館で撮影したものであるが、年代は不詳である。中村の正金銀行入行が明治十七年五月であるので、入行を記念して撮影したのかもしれない。

22 この写真には署名など記載がないが、正金銀行初代頭取の中村道太

である。中村の肖像写真は『横浜正金銀行全史』第六巻の口絵の写真が唯一であったが、横浜旭通の鈴木東谷写真館で撮影したこの写真は新発見といえる。中村は川島の入行から二ヶ月後明治十五年七月に頭取を辞任していることから、おそらく川島が入行した際に中村から贈られたものであろう。

23 鍋倉直は、正金銀行入行前には第百国立銀行に勤務しており、明治十七年に正金銀行に移った。その経緯は不詳であるが、当時第百国立銀行頭取であった原六郎の紹介と見ることも可能かもしれない。また、明治十二年には『国立銀行簿記一班』という銀行簿記の専門書を発行していることからみても、正金銀行にとって即戦力の人物であったといえよう。写真裏書きには「明治十八年三月在紐育 鍋倉直 呈川島忠之助君机下」とある。米国立公文書館所蔵横浜正金銀行ニューヨーク支店資料のうち「明治十七年本店公信」のなかの明治十七年五月二十九日付公信には「鹿児島県士族鍋倉直氏過般当行六等手代二雇入相成引続き米国紐育出張申付即今便船にて出発相成候」とあり、戸次兵吉と入れ替りに赴任したことがわかる。⁽¹⁰⁾ 明治十九年五月ニューヨーク出張所を訪れた原六郎頭取に同行してサンフランシスコ経由で帰国する予定であったが、急遽サンフランシスコに出張所を開設することになり、鍋倉はその主任となった。⁽¹¹⁾ この写真は鍋倉がニューヨーク出張所時代に撮影したもので、リヨン出張所の川島に贈呈した。

24 西巻豊佐久は、ロンドン支店詰であったが、明治二十五年十月マルセイユ経由で帰国する途中、リヨン出張所の武澤と同行するためリヨンに立ち寄ったのが十月十四日である。翌日川島はロンドンの中井芳楠に書簡を送り、「西巻氏ニモ昨朝御来着相成り貴地ノ御近状及御伝言ノ事柄

等逐一拝承大ニ心得ト相成リ満悦致候同氏ニハ今夕馬港へ向テ出発同港ニテ武沢氏ト同船明夕解纜ノ筈ニ御座候」と記している。⁽¹²⁾ ロンドンで撮影した写真の裏書きも同日である。

25 根岸政常の正金銀行入行は、明治二十九年十一月十二日であり、この写真の裏書きには、入行以前の明治十五年五月七日に川島忠之助の姉久和に贈られた旨の記載があることから、川島とは互いに正金銀行入行前に面識があったものと思われる。他にも年代不明であるが、日下部金幣撮影の写真が二枚ある。

26 羽倉信太郎は、明治三十一年に高等商業学校を卒業、同年正金銀行に入行し、明治三十三年頃にリヨン出張所に赴任した。裏書きによりリヨンで撮影した写真を川島に贈ったことがわかる。おそらく初代リヨン出張所主任を務めた川島への挨拶をかねて贈呈したものと推測する。

27 原誼太郎については、詳細が不明であるが、裏書きに「明治二十七年九月二日孟買支店赴任ノ為メ倫敦出発ニ際シ撮影 原誼太郎」とある。

28 原六郎は正金銀行第四代頭取であり、リヨンの川島とは公私ともに交流を重ねていた。写真は横浜真砂町の鈴木真一写真館で撮影されたもので、裏書きがないので年代は不詳。冬服で革靴と革手袋にステッキを持つている姿である。原は乗馬が趣味で横浜遠乗会の会長も務めているので、乗馬のスタイルかもしれない。⁽¹³⁾

29 原友己についても不詳なことが多い。裏書きには「明治三十八年二月二十一日 謹呈 川島尊台 原友己 再拝」とあり、他にも明治四十一年奉天で撮影した写真もある。

30 福沢英之助は、正金銀行に二年三ヶ月に在職していないが、入行前は第一国立銀行横浜支店の計算課長であった。おそらく川島が入行し

た際に受領したのであろう。明治十六年七月二日の『時事新報』には正金銀行を退行しブローカーを開業する広告を出している。

31 戸次兵吉は「べつきへいきち」といい、もとは大蔵省銀行局員で正金銀行管理掛を勤めていたが、明治十四年十二月に大蔵省を辞め、正金銀行に入行した。明治十五年ニューヨーク出張所出張員として赴任し、明治十九年ロンドン支店徳田支店長病気のためその代理を務め、明治二十一年帰国した。川島も明治二十一年六月に帰国していることから、この写真は、戸次がロンドンで撮影したものを川島と横浜で再会した際に贈呈したものと考えられる。なお、『横浜成功名譽鑑』⁽⁴⁾に戸次の肖像が収録されている。

32 松村一造の写真裏書きには、「呈川島叔父 陸軍歩兵少尉正八位松村一造」とあることから、川島と松村は親戚関係にあるようだが詳細は不明。

33 宮川恭太郎は明治二十四年に東京商業学校附属主計学校を卒業し、翌二十五年に入行、上海支店勤務を経て明治三十一年にボンベイ出張所に移り、その際川島と席を同じくした。その関係もあつてかボンベイで撮影した写真を川島に贈呈したのであろう。

34 村田一郎は正金銀行官選取締役で外国為替を担当する外国部長を兼務した。明治十七年一月二十九日に欧州各店検査のため村田は横浜を出発し、四月十一日リヨンで川島と再会した。⁽⁵⁾ ニューヨークで撮影したものの。

35 山川勇木は第十三国立銀行に勤務していたが、正金銀行開業間もない七月に入行し、明治二十年から二十四年までロンドン支店に勤務した。ロンドン時代にはリヨンの川島と時々面会するなど公私ともに交流し

た。明治二十四年本店副支配人となった山川が横浜の山村写真館で撮影した肖像写真を川島に贈呈した。海外にいる川島に代わり山川が川島の姉や親族の面倒を見ていた。

おわりに

川島忠之助資料内の横浜正金銀行行員の肖像写真三十五点を、川島との関係を中心に紹介した。今回以外にも多数の肖像写真があるが、裏書きがないなどから人物を特定できないものもあるので、今後はそれらを明らかにすると同時に、行員の履歴や記録を調査する必要がある。また、今回紹介した人物について不明な点も少ないので、ご教示いただければ幸いである。

なお、本稿執筆にあたり貴重な資料をご提供戴いた川島瑞枝氏をはじめ資料の閲覧をお許し戴いた露木茂氏、正友会、横浜市史資料室に対して感謝申し上げます。また、写真の整理等では当館非常勤学芸員の武田周一郎氏の助力を得た。

註

- (1) 拙稿「横浜正金銀行創立当初の職制と行員について」『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第三七号、神奈川県立歴史博物館、二〇一一年
- (2) 原邦造編『原六郎翁伝』中巻、私家版、一九三六年
- (3) 科学研究費報告書『川島忠之助資料から見た明治期の横浜正金銀行』二〇二二年。

(4) 前掲科学研究費報告書、一七七頁

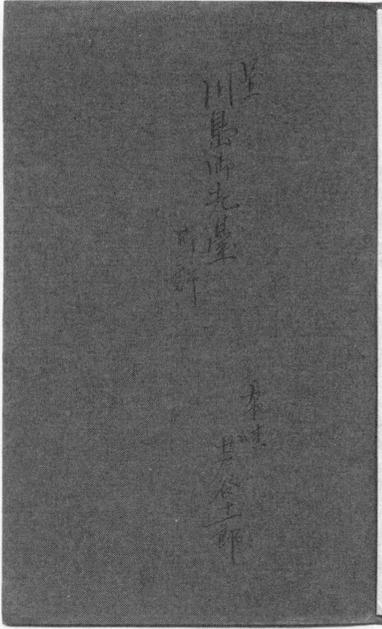
(5) 前掲科学研究費報告書、一七一頁

(6) 前掲科学研究費報告書、一五五頁

- (7) 一橋大学図書館ホームページ「複式簿記がやってきた ホイットニー門下」
(<http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/tenji/K15/whitney-monka.html>)
- (8) 西堀昭「横浜フランス語学所」『日仏文化交流史の研究』駿河台出版社、一九八一年、二九九頁
- (9) 『正友』第七九号、正友会、二〇〇九年
- (10) 「米国立公文書館所蔵横浜正金銀行紐育支店資料」は、横浜市史資料室所蔵のマ
イクロフィルムを利用した。
- (11) 前掲(2) 下巻。
- (12) 前掲科学研究費報告書、一三四頁
- (13) 前掲(2) 中巻。
- (14) 森田忠吉編『開港五十年記念横浜成功名誉鑑』横浜商況新報社、一九一〇年
- (15) 前掲(10)。

付記 本稿は、JSPS科学研究費「川島忠之助資料から見た明治期の横浜正金銀行」
(平成二十年度～平成二十三年度 基盤研究C)の助成をうけたものである。

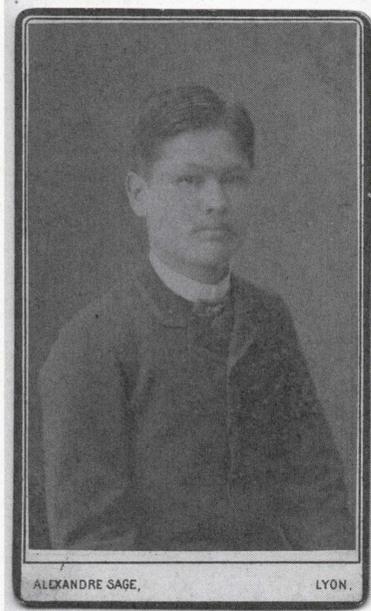
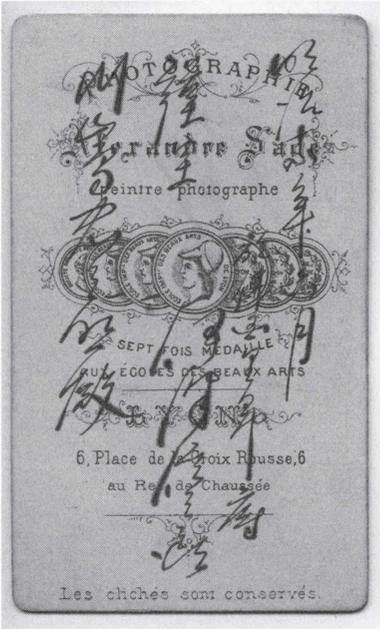
裏面



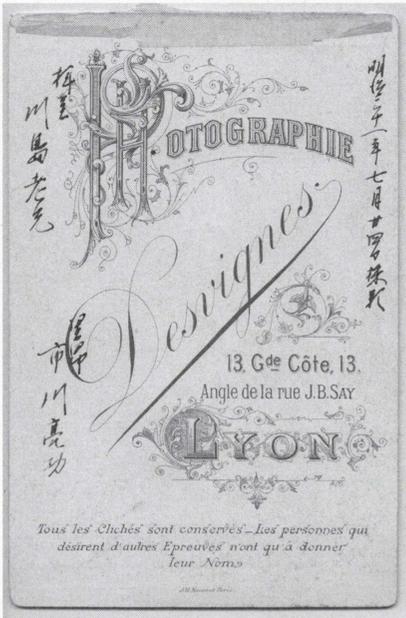
表面



NO. 1

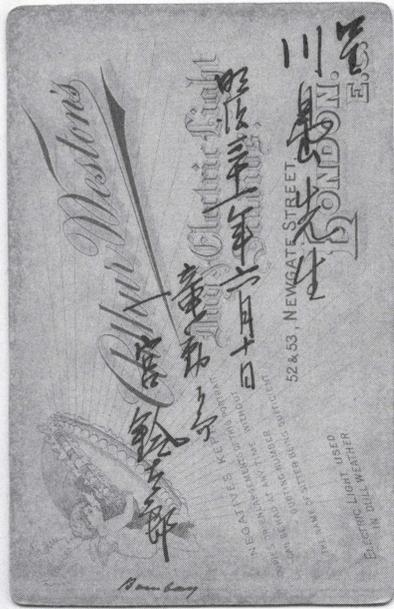


NO. 2



NO. 3

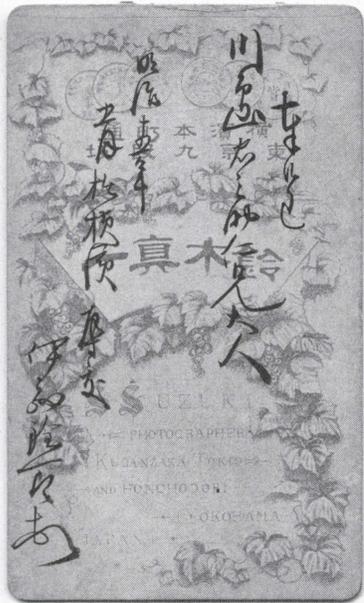
裏面



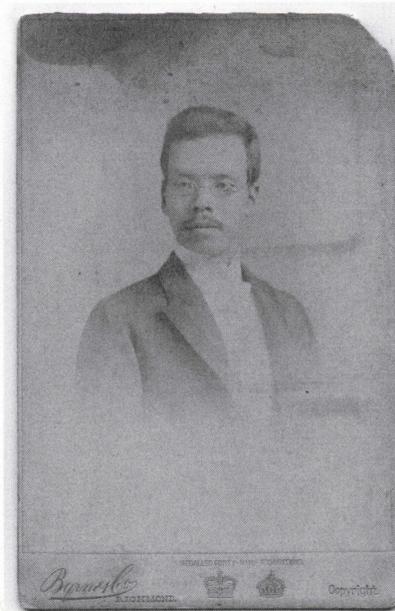
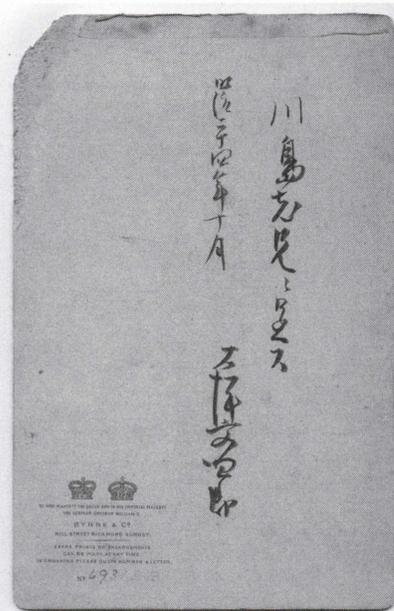
表面



NO. 4



NO. 5



NO. 6

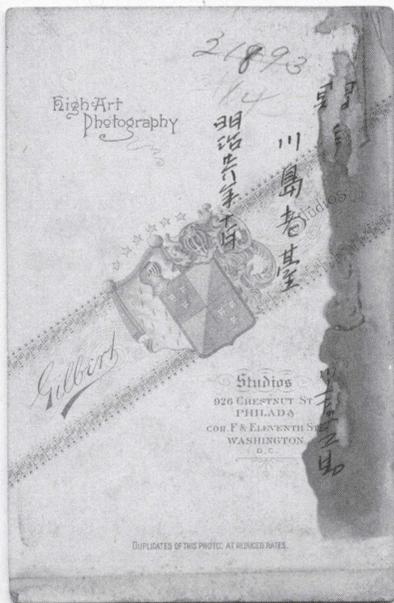
裏面



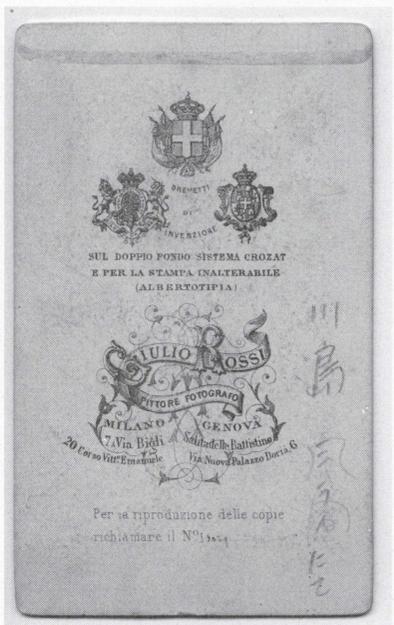
表面



NO. 7

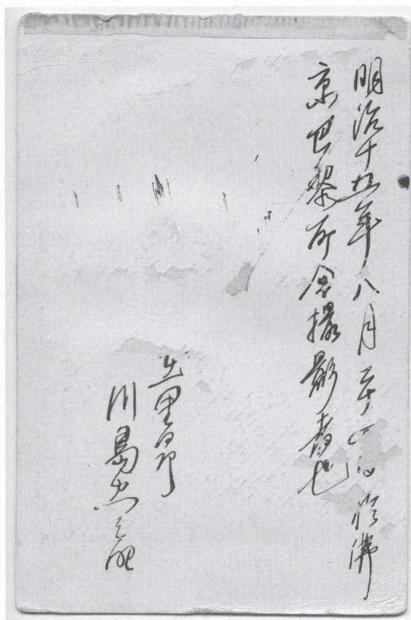


NO. 8



NO. 9

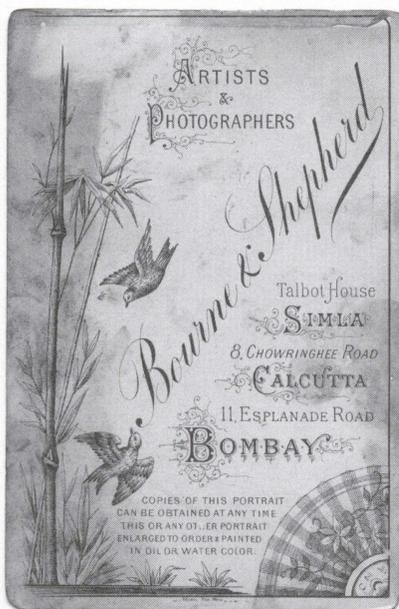
裏面



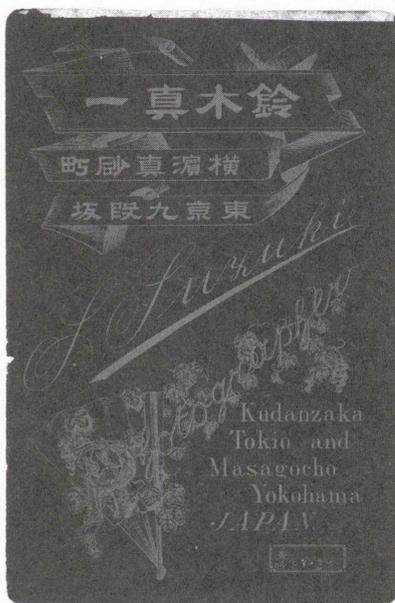
表面



NO. 10

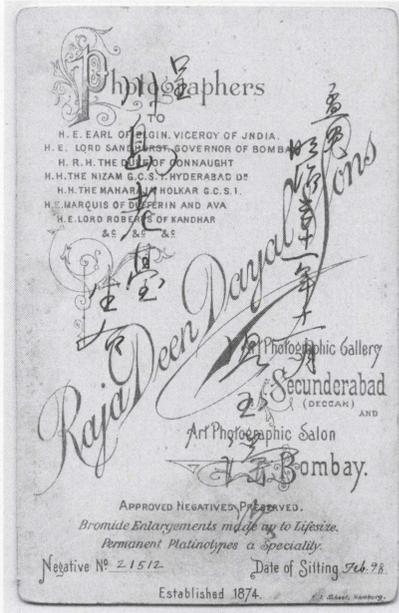


NO. 11



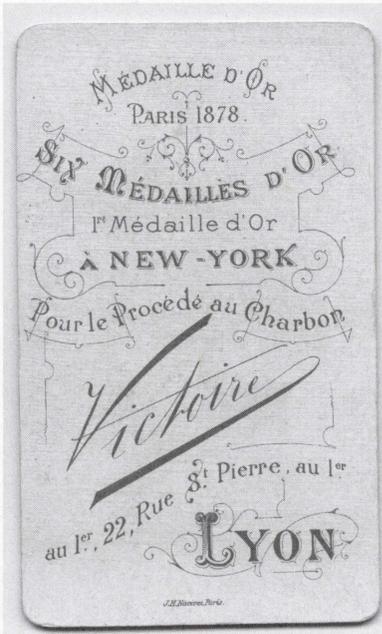
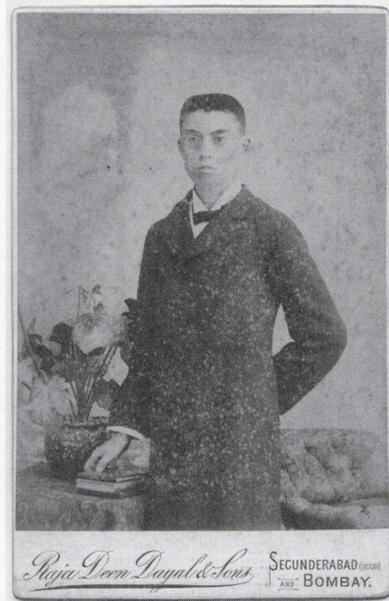
NO. 12

裏面



NO. 13

表面



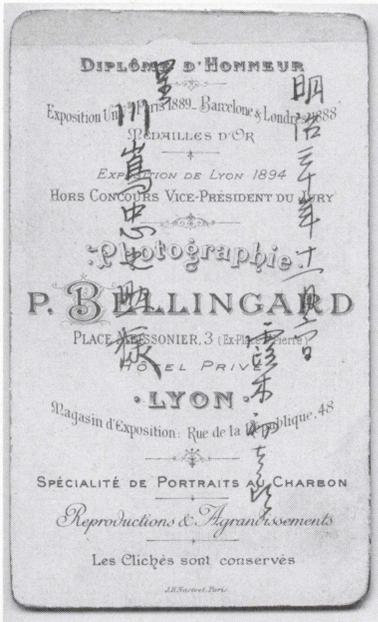
NO. 14



NO. 15

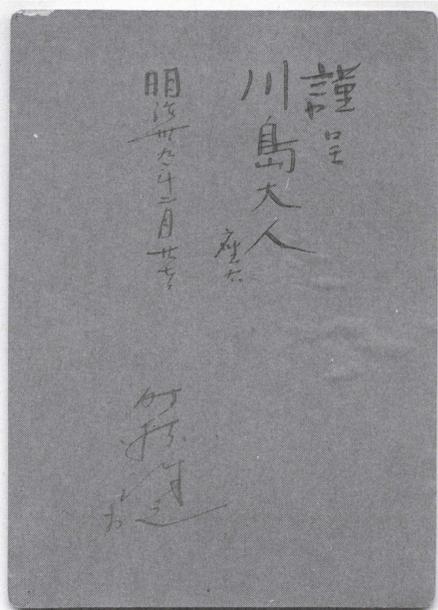


裏面

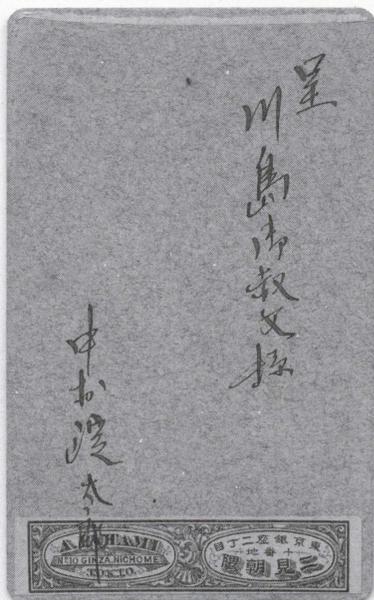


NO. 19

表面



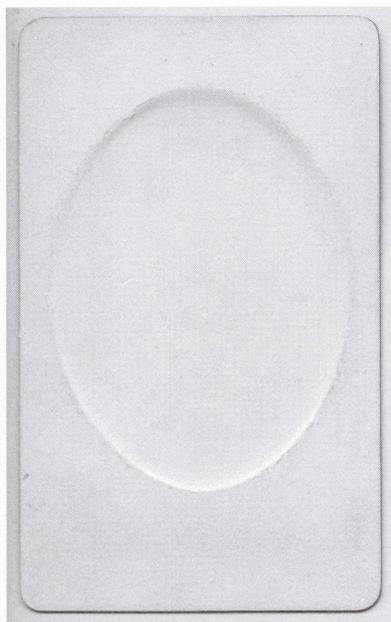
NO. 20



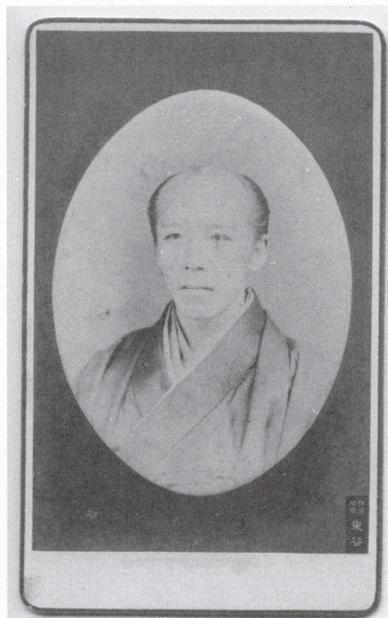
NO. 21



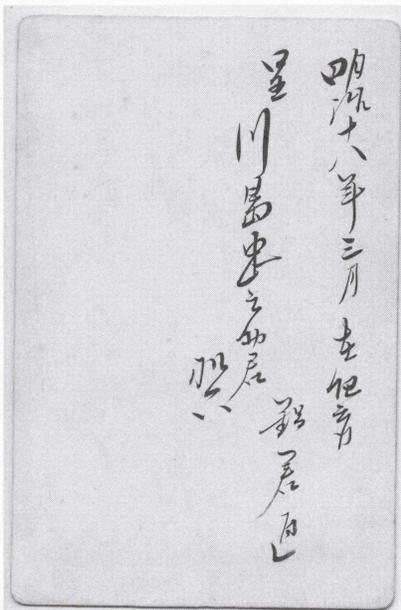
裏面



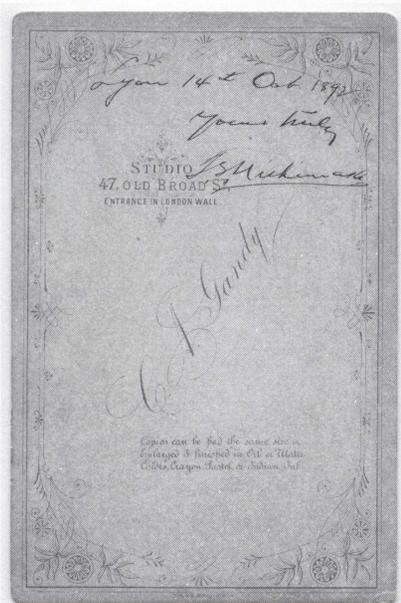
表面



NO. 22



NO. 23



NO. 24

裏面



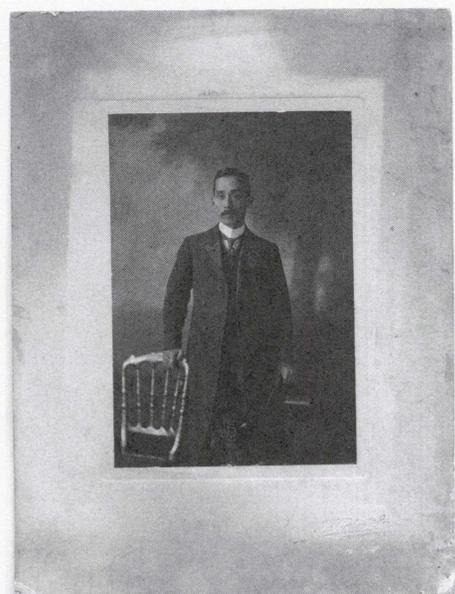
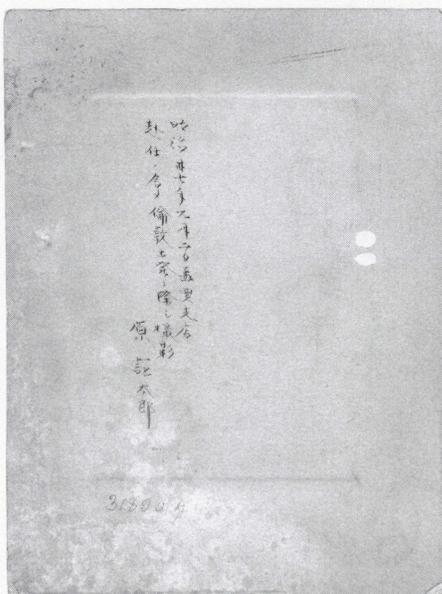
表面



NO. 25



NO. 26



NO. 27

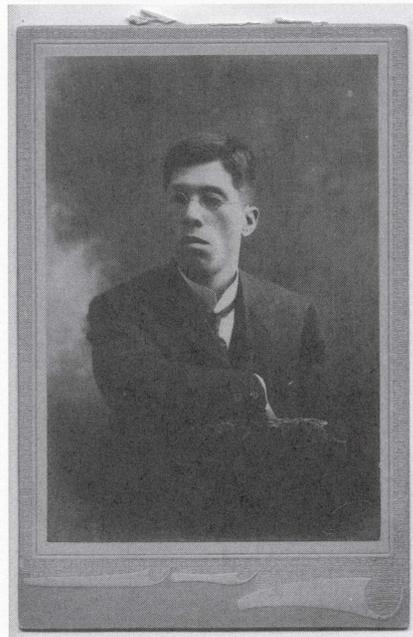
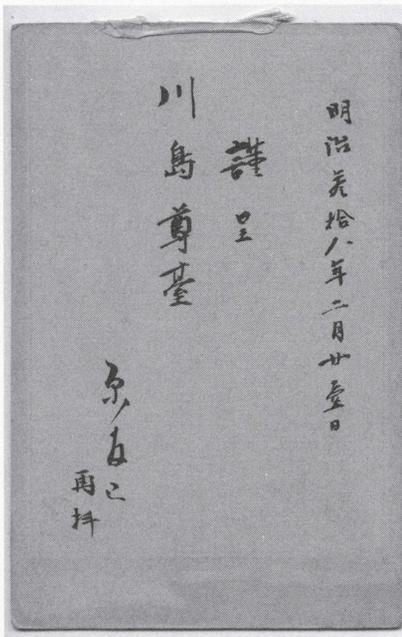
裏面



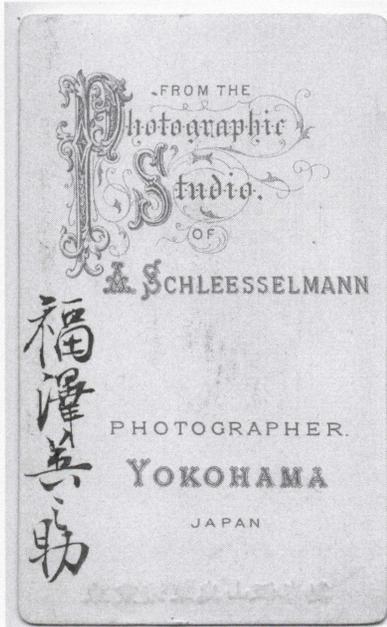
表面



NO. 28

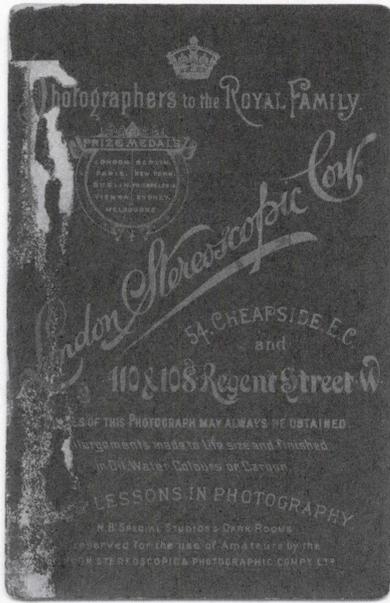


NO. 29

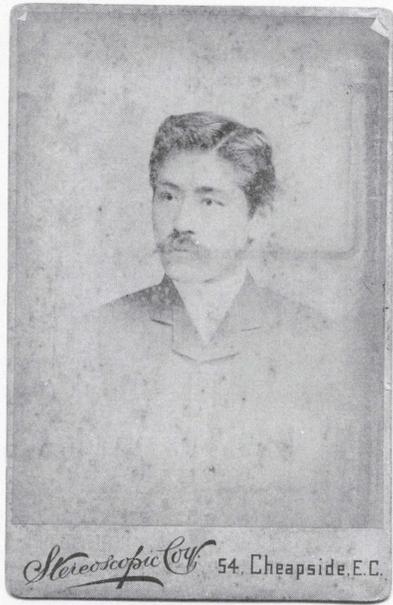


NO. 30

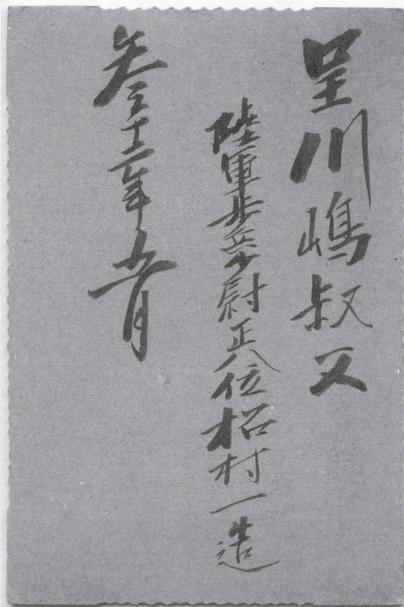
裏面



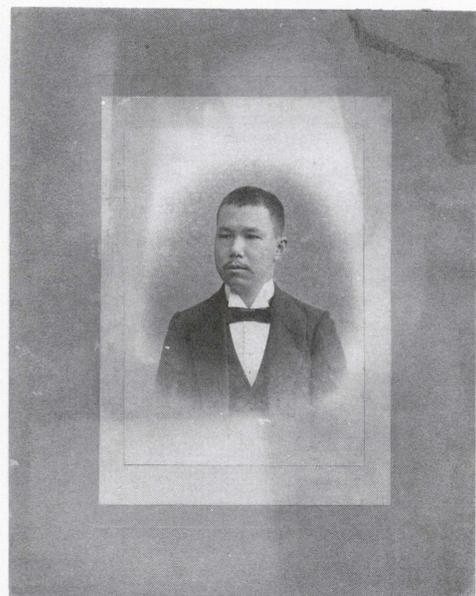
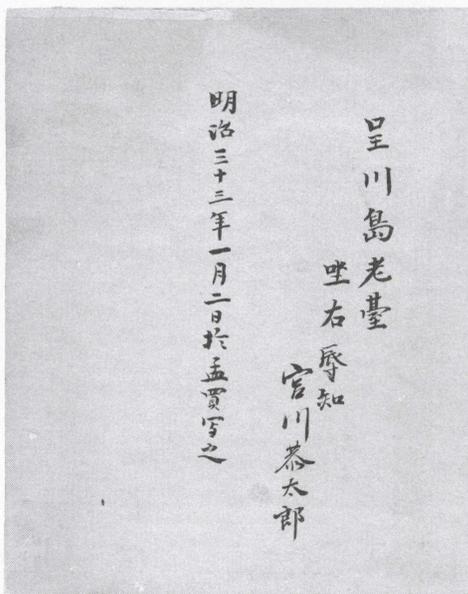
表面



NO. 31



NO. 32



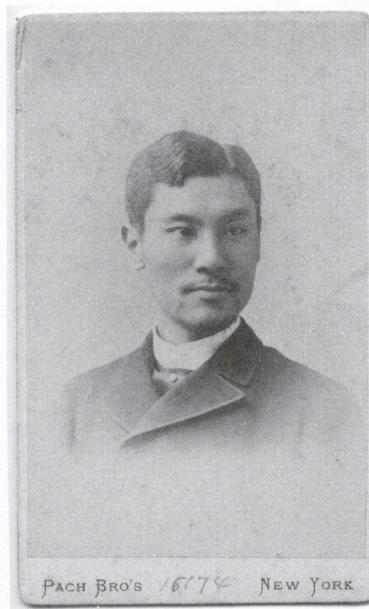
NO. 33

裏面

To Mr C. Kawashima
 "Forget me not"
 Your friend
 J. Murata
 4/11/84

NO. 34

表面



Yokohama 15 May 1896

To
 J. Kawashima Esq.
 from
 Yuki Yamakawa

NO. 35

